

第2期富谷市教育振興基本計画 第3回策定委員会

日 時 令和4年10月6日(木) 午後3時～午後4時30分
場 所 富谷市役所 3階305会議室
出席者 委員長 吉村 敏之 副委員長 高橋 知美
委員 金田 裕子 委員 大場 由美 委員 日諸 喜代子
委員 富田 智子
欠席者 委員 木村 一也
事務局 富谷市教育委員会教育長 及川 芳彦 教育次長 三浦 敏
教育部長 相澤 美和 学校教育課長 今野 善徳
生涯学習課長 菊地 宏修 教育総務課長 千葉 正俊
教育総務課長補佐 坂爪 道子 教育総務課主幹 高橋 凡子

次 第

- 1 開 会
- 2 挨 拶 富谷市教育振興基本計画策定委員会 委員長 吉村 敏之
富谷市教育委員会 教育長 及川 芳彦
- 3 報 告
教育に関するアンケート調査の結果について
- 4 協 議
(1) 第2期富谷市教育振興基本計画(原案)について
(2) 策定スケジュール(変更案)について
- 5 その他
今後の開催日程について
- 6 閉 会

【相澤部長】

ただいまより、第2期富谷市教育振興基本計画第3回策定委員会を開会いたします。
開会にあたりまして、富谷市教育振興基本計画策定委員会 吉村敏之の委員長よりごあいさつを頂戴いたします。

【吉村委員長】

委員の皆さま方にはご多用のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。
事務局の皆さまには資料を作っていただきまして、ありがとうございました。

いよいよ本日、こちらの基本計画の検討ということになってまいりますので、これからの富谷市の益々の教育の充実を図るべくよろしく願いいたします。

【相澤部長】

続きまして、富谷市教育委員会 及川芳彦教育長より、ごあいさつを申し上げます。

【及川教育長】

第2期富谷市教育振興基本計画第3回策定委員会のご案内を差し上げましたところ、吉村委員長をはじめ委員の皆さまには大変お忙しい中、お集まりご出席いただきましたこと感謝申し上げます。先ほど吉村委員長からのご挨拶にありましたけども、いよいよ詳細の検討に入っていくことにあたり、アンケートを基に本日の資料を作成しております。まだまだ粗削りな部分もあると思いますので、どうぞ忌憚のないご意見ご指導賜りますようお願い申し上げます。限られた時間でございますが、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

【相澤部長】

本日、木村委員から欠席のご連絡をいただいておりますので、委員6名の出席となります。富谷市教育振興基本計画策定委員会条例第5条第2項の規定により会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。それでは次第3の「報告」に入ります。進行につきましては吉村委員長にお願いを申し上げます。

【吉村議長】

それでは、次第3の「報告」に入ります。

教育に関するアンケート調査の結果について、事務局より説明をお願いします。

【坂爪補佐】

それでは次第3の報告、アンケート調査の結果についてご報告させていただきます。着座にて失礼させていただきます。

資料2の7ページをご覧ください。アンケートによる意見収集ということで下記4種類をこのたび実施いたしました。

まず、市民アンケートからみていきたいと思います。

市民アンケートにつきましては市内在住の16歳以上から無作為抽出を行いました。配布数1,400名、有効回答数526名、回答率は37.6%でした。調査票の有効回答数のうち紙媒体で郵送されてきたものは376件、Webでの回答が150件となっております。アクセス数自体は240件ありましたが、このうち90件は回答に至らなかったものです。

要因としては、質問が多すぎてWebでの回答に時間がかかりすぎていたり、あとは途中回答でも送れるようにしておけば、回答率が上がったのではと思っております。

続きまして、児童・生徒アンケートとなります。小学生260名、中学生326名、配布数586名で、有効回答数565名、回答率が96.4%です。続いて教職員につきましては、配布数81名、有効回答数77名、回答率95.1%となっております。この2つについては学校を通した配布となっておりますので高くなったものと考えております。

関係者・PTA・関係団体、配布数33名、有効回答数29名、回答率87.9%と

なっております。

続きまして、アンケートの調査結果についてみていきたいと思えます。

資料1のアンケート調査結果報告書をご覧ください。まず、市民アンケートの3ページをご覧ください。市民の回答者属性ですが「あなたの年齢を、次の中から選んでください。」ということで平成29年度調査と比較してみますと、40代、50代の割合が約40%と大きくなっております。

問2で「あなたの性別を、次の中から選んでください。」ということで女性の割合が54%、男性が43%となっております。

5ページをご覧ください。「あなたの住んでいる地区を、次の中から選んでください。」ということで「明石台地区」の割合が18.8%と最も高く、次いで「成田地区」の割合が17.1%となっております。そのあと「あけの平、富ヶ丘、日吉台」と続いており、平成29年度の調査と比較すると、大きな変化はみられない状況となっております。

次にアンケートの質問の中身をみていただきたいと思えます。18ページをご覧ください。

生涯学習についてということで、「あなたは生涯学習について知っていますか。」という質問に対し、平成29年度調査と比較しますと、「どのようなものか知っている」と回答した割合が、平成29年度が31.4%だったのに対し39.4%と今回増加している傾向がみられます。

25ページの「あなたは今後、生涯学習をしたいですか。」という質問に対しまして、「わからない」という回答が35.6%と最も高く、次いで、「したいが、できない」の割合が24.3%、「今の活動を続けたい」の割合が21.9%となっております。こちらのほうも平成29年度調査と比較すると大きな変化はみられないところです。

26ページの付問のところで「生涯学習をしたいが、できない」と回答した方で、「生涯学習ができない理由は何ですか」と質問したところ「仕事、家事・育児などで忙しい、(時間がない)」の割合が68.8%と最も高く、次いで「きっかけがつかめない」の割合が21.1%、「活動の内容や時間帯が希望に合わない」の割合が18%となっております。

34ページの芸術・文化の質問についてです。「この1年間に、ホール・劇場、映画館、美術館・博物館などで鑑賞した芸術・文化体験はありますか。」という質問に対し、「特にない」の割合が39.4%と最も高く、平成29年度に比べると10%高くなっています。映画の割合が32.9%、音楽の割合が17.1%となっており、平成29年度と比べるといずれも減少している状況であり、新型コロナウイルス感染症の影響が関係しているものと推測されます。

42ページの文化財についての質問項目です。「あなたは、富谷市の文化財(お神楽、田植え踊り、天然記念物、有形文化財)に関心はありますか。」という質問に対し、「関心はある」と「まあまあ関心はある」を合わせた「関心はある」の割合が34.6%となっており、平成29年度の調査と比較すると「関心はある」の割合が増加しております。

45ページ、46ページの運動・スポーツについての質問になります。問23「この1年間、運動やスポーツ（散歩、ジョギング、ラジオ体操など、比較的軽い運動）をしましたか。」という質問に対しまして、「普段からしている」と「時々している」を合わせた「している」の割合が57.6%と、平成29年度調査と比較すると大きな変化はみられません。

50ページの「どのような運動やスポーツを行っていますか。」という質問に対し、平成29年度の調査と比較すると「散歩、ウォーキング」「家の中でもできる軽い運動」といったものの割合が増加しています。

58ページの「あなたは、とみやスポーツクラブ（富谷総合型地域スポーツクラブ）を知っていますか。」という質問に対し、「知っている」の割合が29.5%であり、平成29年度の調査の時は20.2%でしたので、こちらについても「知っている」の割合が増加しています。

64ページの「あなたは、地域の小・中学校に関わるボランティア的な活動（PTA活動）に参加する意向をお持ちですか。」という質問に対し、「わからない」の割合が35.7%と最も高く、次いで「あまり参加していないし、今後も参加したくない（できない）」の割合が32.7%となっています。「あまり参加していないが、今後は参加したい」の割合は14.1%となっております。「できる限り参加しており、今後も参加したい」「あまり参加していないが、今後は参加したい」という参加したいという回答については、22.5%となっております。

65ページをご覧ください。今の質問に対して「できる限り参加しているが、今後は参加したくない（できない）」または「あまり参加していないし、今後は参加したくない」と回答した方にうかがいます。「何が変われば参加しようと思いませんか。」という質問に対し、最も多かったのが「時間に余裕ができれば」が30.9%、次いで「参加する気はない」が28.4%、「活動内容が魅力的なら」が17.6%となっております。この3つが大きな理由となっております。

続いて66ページ、保護者アンケートの中での「子どもの教育について」というところになります。保護者からのアンケートで「ご家庭での子育ては、どのようなことを心掛けていますか。」という質問に対し、「悪いことをしたら、きちんと叱る」ことについて「心掛けている」「どちらかといえば心掛けている」を合わせたものが98%と、もっとも多い数字となっています。また、「良いことをしたら、きちんと褒める」の割合も次いで高くなっております。「基本的な生活習慣を身に付けさせる」こちらも同じ割合となっております。

86ページ、問37をご覧ください。「対象のお子さんが通っている幼稚園や小・中学校について満足していますか。」という質問に対しまして、「満足」と「まあまあ満足」を合わせた“満足”の割合が82.7%となっており、「満足している」といった回答が多く、平成29年度調査と比較し大きな変化はみられません。

次に児童・生徒アンケートにまいります。159ページをご覧ください。

「あなたは、学校に通うのが楽しいですか。」という質問に対しまして、小学5年生、

中学1年生、中学3年生、どの学年においても「楽しい」と「どちらかといえば楽しい」をあわせた“楽しい”と回答している割合が、いずれの学年においても80%を超えています。また次の160ページの間4-2「どちらかといえば楽しい」と回答した方にうかがいます。学校が楽しいと思ったのはどんな時ですか。という質問に対し、小学5年生、中学1年生、中学3年生の全学年が共通して「友だちと話をしたり遊んだ時」「休み時間・放課後の時間」の割合がそれぞれ1位、2位と多くなっています。

続きまして162ページ問5をご覧ください。「あなたは、勉強が好きですか。」という質問に対し、「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた“好き”の割合が小学5年生では60.3%、中学1年生の割合が47.6%、中学3年生の割合が30.5%と、学年が上がるにつれて“好き”の割合が大きく減少していくことが分かります。

176ページ、問15をご覧ください。「あなたは、自分だけが使う携帯電話やスマートフォンを持っていますか。」という質問に対し、学年が上がるにつれ“持っている”の割合が高くなっており、中学3年生は95.1%が「持っている」と回答しております。

178ページをご覧ください。「問15で「持っている」と回答した方にうかがいます。あなたは平日に携帯電話やスマートフォンをどのくらいの時間使っていますか。」という質問に対し、小学5年生は、「2時間以上3時間未満」の割合が20.5%と最も高くなっております。中学1年生が「2時間以上3時間未満」が24%、「3時間以上5時間未満」が24%、合わせて48%となっております。中学3年生については「2時間以上3時間未満」の割合が35.3%、「3時間以上5時間未満」の割合が21.2%となっております、平日のスマートフォンの使用時間は学年が上がるにつれて非常に多くなっている状況です。

教職員アンケートに入ります。197ページをご覧ください、富谷市の教育について伺う質問になっております。

「あなたの学校で、あなたが子どもに特に身に付けさせる必要があると思うことはなんですか。」という質問に対し、「基礎的な学力」が43.4%と最も高く、次いで「自分の考えを相手に伝える力」の割合が36.8%、「他者を尊重する心」の割合が32.9%となっております。

209ページ、問10をご覧ください。「あなたは、教職員が授業以外で行っている指導などで、優先すべきものは何だと思えますか。」という質問に対し、「校内での児童・生徒の安全確保に関する指導」が59.2%と最も高く、次いで「基本的な生活習慣を確立するための指導」、「教職員の資質・能力向上のための研修・研究」の割合が53.9%となっております。

関係団体、関係者のアンケートです。251ページをご覧ください。関係団体については老人クラブ、芸術協会、スポーツ協会や青年団、郷土史研究会などに聞き取りを行っております。

251ページで、「問8 貴団体が活動する上で課題となっていることは、何ですか。」という質問に対し、最も多かったものが「新しい会員が集まらない」の割合が75%、

次いで「若い世代の会員が少ない」の割合が68.8%、「会員の減少により規模が縮小している。」の割合が62.5%となっております。ここでの課題が次のページの支援に繋がっております。

問9、252ページをご覧ください。「貴団体が、今後学習成果を展開していく上で必要な市の支援はどのようなことですか。」という質問に対し、「会員募集の支援」の割合が68.8%と最も高くなっており、次いで「団体や活動についてのPR」の割合が43.8%となっております。

アンケート調査から抜粋して説明させていただきました。今後このアンケート結果から計画の中に必要な部分を組み込んで最終計画案を策定していく予定です。報告は以上となります。

【吉村議長】

ありがとうございました。それでは、次第4の「協議」に入ります。

第2期富谷市教育振興基本計画（原案）について、事務局より説明をお願いします。

【千葉課長】

はい、よろしくお願いいたします。着座にて失礼します。

これまで2度の策定委員会を開催いたしまして、計画の基本事項・教育基本方針、推進施策についてご審議いただいたところでございます。

本日、資料2の計画の原案につきまして協議となりますので、よろしくお願いいたします。

はじめに、以前の策定委員会で提出した資料から内容を大きく更新した部分がございますので、ご説明をいたしたいと思っております。資料2をご準備いただきまして9ページをご覧ください。【1-5 教育を取り巻く社会情勢の変化】ですが、第1回策定委員会で提出した資料では、計画の背景(国、県の動き)という表題で掲載しておりましたが、その後、国県で示している施策に沿って、より分かりやすい内容に更新したものでございます。

比較をこれから申し上げます。前回は教育基本法の改正といたしまして示していたもので、9ページ(1)上段になりますが、教育基本法の改正といったタイトルで内容については変更ございません。

次に、国の教育指針及び教育改革の取り組みといった部分でございますが、「(2)新たな地方教育行政制度の開始」「(3)学習指導要領の全面実施」こちらにつきましては若干説明を付け加えてございます。

次に、「(4)「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」でございますが、こちらにつきましてはAI、ロボットの働きによる超スマート社会の到来、それから新型コロナウイルス感染拡大など予測困難な時代の中、ICT活用の推進が期待されるといったことを追加しております。

では、10ページをご覧ください。「(5)いじめ防止等のための基本的な方針の改定」

こちらにつきましては、内容に特段の変更はございません。

「(6) 社会教育等の改正」「(7) 社会教育関連の答申」この2つにつきましては、これまでの動向を新たに追加したものでございます。

次に、前回、スポーツ・文化芸術立国の実現といった項目で掲載しておりましたが、今回(8)としまして「文化芸術推進基本計画」の策定、それから「(9) 文化財保護法の改正」「(10) 第3期スポーツ基本計画」の策定」これら3つにつきましては、前回、表で表現していたものを文章表現に改めたものでございます。

次に、前回、具体的な記載がなかった項目といたしまして、11ページになりますが、「(11) 子どもの貧困対策の推進」「(12) 働き方改革の促進」「(13) ウィズコロナ、アフターコロナにおける新しい生活様式」これらの3点につきまして、新たに盛り込んだものでございます。

次に「(14) 国の「第4期教育振興基本計画」の策定」こちらにつきましては、現在、国の方で策定中ということでございます。

次に、前回、宮城県の教育施策として掲載していたものに対し、今回「(15) 宮城県の教育施策」といたしまして、前回は図で表現したものを文章表現に改めましたが、内容変更は特にございません。

次に、前回の策定委員会資料から新たに入れ込んだ部分についてご説明いたします。

14ページをご覧ください。【1-6本市の教育にかかる現状】といたしまして「(1) 人口」です。こちらにつきましては、目標人口の折れ線グラフの富谷市人口ビジョンによりますと、今後も宅地造成等による急増化が見込まれまして、30年後には人口が6万人に達する見込みとなっております。

下段のグラフをご覧ください。年齢3区分別の推計人口では、折れ線グラフをみますと、年少人口15歳以下が将来的に、ほぼ横ばいに対しまして、生産年齢人口16歳から64歳までにつきましては減少に転じ、高齢人口65歳以上につきましては、増加する傾向となっております。本市におきましても高齢化が進むことが見てとれると思いません。

次に15ページをご覧ください。「(2) 幼児教育」でございます。現在市内に公立幼稚園1園、私立幼稚園が3園ございまして、園児数は年々減少傾向にございます。下段に市内の幼稚園、こども園を掲載しておりますのでご覧いただきたいと思います。

次に17ページをご覧ください。「(3) 学校教育」といたしまして、富谷市立小・中学校について掲載しております。近年、小・中学校の児童・生徒数は減少傾向が続いております。下段に小学校8校、中学校5校、さらには今年4月に富谷中学校西成田教室が開設してございます。

次に18ページから20ページにつきましては、令和4年度富谷市教育基本方針及び推進施策に基づきまして、学校教育に関する推進施策の現状について掲載しているものでございます。

21ページから23ページまでにつきましては、生涯学習に関する推進施策に基づいて、生涯学習に関する推進施策の現状について掲載しております。【1-6本市の教育

にかかる現状】についての説明は以上となります。

引き続き、教育総務課の推進施策について説明を申し上げます。資料の30ページをご覧ください。施策の方向性ですが「1. 幼稚園教育要領を踏まえた特色ある幼児教育の実践」としまして、食育、エコ活動、SDGsなどを継続して取り組みます。

次に、「2. 幼児教育体制の充実」に向けて幼児のニーズに合った職員の配置を行います。「3. 継続して学び合う力を育成する連携体制の充実」として、幼・保・小連携強化を図ります。「4. 子育て家庭への支援の充実」として、保護者のニーズに応えるべく、預かり保育を実施していきます。

31ページをご覧ください。「5. 公立幼稚園・私立幼稚園の役割の確立」としまして、幼稚園運営審議会の答申を受け、市立富谷幼稚園も民営化に向けた検討を進めてまいります。

次に51ページをご覧ください。施策の方向性、「1. 教育施設・設備の計画的整備」として経年劣化した学校施設の計画的な整備に努めます。

その下「2. 学校施設の有効利用と安全管理の徹底」としまして、学校施設の長寿命化計画に沿った適正な維持管理に努めます。

52ページをご覧ください。「5. 就学の経済及び生活支援」としまして、生活困窮により学びの機会を失うことがないよう社会情勢等に即した奨学金制度を実施いたします、としております。教育総務課分は以上となります。

【吉村議長】

はい、ありがとうございました。それでは、続けて説明いただいて、そのあと一括してご意見を頂戴するというところでよろしいでしょうか。では、続けてご説明をお願いいたします。

【今野課長】

学校教育課の今野です。着座にて失礼いたします。

それでは、改めて資料2の24ページをご覧ください。教育理念【学び合う 高め合う 尊び合う 富谷の教育】ということで、キーワードとしては、“学び合い”というところが富谷の教育方針の強みかと思っております。それを踏まえて学校教育活動におきましても学びの共同体ということの実践を軸に蓄積をしていきたいと考えております。

具体的に、32ページから重点事業を中心に説明させていただきたいと思っております。

【施策1-2 魅力ある学校づくり】というところでございますが、その中でキーワードとして一番大きいところとしては、全小・中学校がユネスコスクールに加盟しているというところが本市の特徴であり、強みでもあろうかと思っております。この強みを生かして、特に富谷ユネスコ協会、こういった外部団体と積極的な連携を進めていきたいと思っております。

現在、ユネスコ協会と共催で、例えば、学校に通えない子どもを持つ保護者の皆さま

が集える、交流の機会を共催で行うなど新たな動きが見えてきていますので、積極的に強めていきたいと思ひますし、ユネスコスクールという視点でSDGs、こういった観点から今後は民間企業等とも連携を強化しながら教育活動に大いに活用していきたいと思ひているところでございます。

また、もう一つの特徴として、“調べる学習”が富谷の教育のなかでは長年、力を入れているということで、図書教育の充実を図りながら学習指導要領にも記載しております、探求的な学習の質というものをさらに高めていきたいと思ひております。その中で33ページ、中段の学校図書館を活用したという部分は重点事業として押さえているところでございます。

次に34ページ、【施策1-3学力の定着】こちらは前段申し上げたとおり、“学びの共同体”の実践研究、これをさらに加速していくというところに尽きるかなと思ひております。日々、学びの授業がしっかりと動いておりますが、ようやくこれまでの実践と蓄積によって教職員自身がより積極的、主体的に様々な研修に臨む姿がみられ始めているという声が上がってきております。先生方の意識が変わるということは、子どもたちの授業の質も上がるだろうということで、こちらをしっかりと力を入れていきたいと思ひておりますし、合わせて、学び合う教師集団の確立というところも力を入れていこうというところでございます。その中で、より効果的に活用していくためには、ICTの機器、GIGAスクールに即したICTをより上手く使っていくことで主体的、対話的な学びに繋げていければと思ひておまして、35ページ、施策の方向性の中では“学び合いの推進会議”等々の研修会を拡充していくというところを主に押さえているところでございます。

続いて37ページから【1-4子どもに寄り添う特別支援教育の充実】と39ページからの【1-5心の豊かさと社会を生き抜く力の定着】というところは、関連がありますので合わせてということになります。42、43ページのところに重点事業ということで項目立てしております。教育相談の充実、いじめ防止、不登校対策、こちらの柱を中心に力を入れたいと思ひております。令和3年度に教育支援センターを開設し、さらに令和4年度から不登校特例校ということで、本市としても、誰一人取り残さない教育の環境、個々に寄り添った教育の提供というところを、こういった受け皿を中心に対応していきたいと思ひております。特に、教育支援センターにつきましても相談体制の中核としてしっかりと位置付け、連携を強化していきたいと思ひております。

先ほど担当から説明がありましたが、アンケートの中でも教育相談については受け皿の充実を図ってほしいという結果もございまして、ニーズに即して教育支援センターの機能をさらに高めていけたらと思ひているところでございます。

また、いじめ防止の観点からも改定をいたしました。いじめQ&Aというものを策定しておりましたが、今般、GIGAスクールでタブレット一人1台というところもございましたので、タブレットを使用したいじめ対策、また、いじめの認知判断というところの部分も付け加えた、いじめQ&Aを作成しましたので、そういったマニュアルを基に教職員が僅かな変化も見逃さない目を持つこと、そういった部分に力を入れながら

じめ防止を行っていかれたらと思っております。

44ページの【施策1-6 健やかな心身の健康づくり】、こちらは、主に部活動と食育というところになろうかと思っておりますが、部活動に関しましては、文科省から地域移行の方針が出されています。具体的には、来年度から3年間を改革集中期間として位置付けられておりますので、円滑な移行に向けて生涯学習課としっかり連携をしながら対応していきたいと思っております。

食育につきましても、学習指導要領で体験活動の充実ということが謳われていますので、給食センターを中心に体験活動を積極的に取り入れながら進めていきたいと思っております。

47ページの【施策1-7 地域・学校・家庭のつながりの強化】ということで、48ページにも記載してございますが、新規のところ、これからの学校運営事業としては地域との連携というものがより重要になるという考え方をもとに学校運営協議会、いわゆるコミュニティスクールというものを導入し研究をして、しっかりと保護者、地域との共同体制の仕組みというものを構築していきたいと思っております。

【吉村議長】

ありがとうございます。それでは続きまして次の説明をお願いします。

【菊地課長】

生涯学習課です。着座にて失礼いたします。先ほど、千葉教育総務課長からもありましたが、社会情勢の変化のところを見ていただきたいと思っております。

10ページをお願いします。当課の所管は生涯学習、文化財、社会、体育、こういったところが主なものになりますが、番号でいうと6番、7番、8番、9番、13番、こちらが主に該当する部分となっております。その中でも8番の文化財の法律が変更になりまして、“ただ保存しておく”というところから“積極的に活用する”という方向に変わっておりますので、推進施策についてもこのあたりを踏まえて作成しております。

10番、こちらは令和4年3月「第3期スポーツ基本計画」を国で策定しております。本市でもスポーツ推進計画が令和5年度までの計画としてございますので、本計画との整合性を図ってまいりたいと思っております。

他にも少子化、ウィズコロナ、そういったところも当課が所管する事業・団体の育成であったり、事業の展開と多く関わっております。

子ども会やスポーツ少年団などがございますけども、今回アンケートの中でも活動の機会が失われたという結果がでていて考えていますので、こういったところを踏まえて推進施策を作成してございます。

では、推進施策の中からかいつまんでご説明したいと思います。

53ページお願いいたします。【生涯学習推進体制の充実】このなかでも施策の方向性を示しております。富谷市の生涯学習基本計画ということで、お示ししておりますが、

これは前回の計画から策定するというところで、5年間着手できないでいたところがございます。主な原因としてはコロナで事業の在り方をどうしていったらよいかというふうなものが中々みえてこないといったものでございます。

県外でも生涯学習基本計画を作っているところも多くございますので、新しい計画の5年間の中でウィズコロナという視点から改めて策定をすると位置付けたものでございます。

また、市民図書館につきましても複合施設ということで方向性は変わりましたが、今後拠点となりえる施設でございます。そういったところを踏まえて計画するという内容でお示ししております。

文化財について、60ページをお願いします。

内ヶ崎作三郎記念館ということで、とみやどの中に新しい施設を作り、産業観光課が主管課となりますが、文化財の側面から支援しながら運営してまいります。また、新町地区につきましてもネットワークづくりという位置づけでお示ししているところがございます。

最後にスポーツについて61ページをお願いいたします。

体育のスポーツ環境を支援していくネットワークづくりの一つとして包括連携協定を仙台大学はじめ、大塚製薬株式会社、リガーレ仙台と協定を結んだところがございます。

また、新しい動きとしまして、先ほど今野課長からもございましたが、中学部活動の地域移行という面がございます。こちらは、今後地域に移行する際にそこを支えていくスポーツ団体、そういったところの裾野を広げるという部分がございますので、国・県の動きに注視しながら進めて参りたいと思います。

また、スポーツなのか難しいところではございますが、eスポーツという概念も現在ございます。環境も変わってきているという状況もございますので、注視し、いち早く取り入れながら進めていきたいと考えてございます。

生涯学習課は以上でございます。

【相澤部長】

公民館についてご説明いたします。生涯学習課の中に位置付けしております公民館活動についてでございます。

55、56ページの公民館活動の充実というところで、現状のところは、コロナウィルス感染対策に始まり今現在もそういったなかで事業を展開しているところがございます。市内でもいろいろな活動をされる地域の方がいらっしゃいますので、そういった方々の人材を上手に活用して専門講座に取り組んでまいりました。

あとはICTの活用ということで、なかなか進まない状況ではありますが、ホームページなどをしっかりと活用しながら情報提供などを行っております。

あとはコミュニティの活動の拠点ということで、様々な支援を行ってまいりました。また、公民館まつりが毎年行われていますが、コロナの状況で開催ができず、ただ、

この開催ができないという決定におきましては、地域の方、公民館を利用するサークルの方々の意向を調査したうえで3年間祭りの中止を余儀なくされている現状になっています。

インターネットによる公民館の予約システム導入については、前の計画のなかでも記載され、なかなか進まない状況ではありますが、調査や研究など少しずつ進んでおりますので、今後の課題の中で解決していきたいものの1つとなっております。

今後の課題ということで、平日、日中の講座の開設は常に行っていますが、夜や土日の講座の開設を求める声もありますので、そちらのほうも少ないながらも実行はしており、今後、充実を図っていきたいと思います。また、色々な講座を開設していますので、より魅力的な現代に即した市民の求めている講座を開設していく支援が必要でないかと考えております。

それから先ほど触れましたとおり、受講生とか利用者の利便性を図ることについても予約システムやICTの活用などが挙げられます。

施設も老朽化が進んでおりますので、社会教育施設の長寿命化計画が策定されたことに伴いまして、安全対策を整えていく必要があります。

図書館の複合施設も進んでおりますので、そちらに合わせて各公民館の整備が必要となっております。

56ページで、施策の方向性ということで2つ挙げております。1つは【多様な学習講座と事業の展開】ということで、先ほども述べましたけれども、社会教育指導員が各館一人ずつおりますが、その方々を中心にいろいろな世代ニーズに合わせた講座を展開しておりますが、これまでのなかで富谷ユネスコ協会の設立ですとか、SDGsなど今般いろいろなところで教育的にも取り入れられておりますので、そういったところを踏まえながら講座プログラムの企画内容を工夫し充実を図っていきたくて思っております。

また、核家族化が進んでおり、富谷も地域社会の繋がりが希薄になっているということで、家庭教育力の促進を図るような事業展開ができないだろうかというところがございます。学校で起きているいじめや不登校、課題を持つ児童・生徒、家族等の解決策に繋がるような可能性が考えられるのではないかとということで連携してまいりたいと考えております。

それから利便性を図るということで、これまでコロナの前までは託児の実施をしておりましたが、今中止になっておりますので、いち早く対策をとって進めていきたくて思っております。

また、インターネットの予約も進めていきたくて思っております。ICTの有効活用、アンケートの中でも時間がない等の理由でなかなか学ぶことが出来ない方に対し、有効的な活用を進められないかということで研究して参りたいと思っております。

次に2番目「公民館の拠点機能の向上」ということで、複合施設の開設を令和7年目標に進めていますので、それに伴い各公民館の図書室のリノベーション等をこれから整備して、そちらのほうにも力を入れていくような方向性となっております。以上です。

【吉村議長】

ありがとうございました。それでは、それぞれ施策の方向性、具体的な主要事業についてご意見を頂戴したいと考えております。まず、【基本目標1 22世紀の礎を築く富谷の学校教育】という事で施策が8つございます。学校教育については29ページから52ページとなっております。その中で「1-1 幼児教育の充実」、「1-2 魅力ある学校づくり」、「1-3 学力の定着」、「1-4 子どもに寄り添う特別支援教育の充実」、「1-5 心の豊かさと社会を生き抜く力の定着」。

まず、施策の1-1から1-5の範囲で、先ほど申し上げましたように主に方向性ということで、ご意見賜りたいと思います。

学校教育に関わる場所ですので、高橋委員お願いします。

【高橋副委員長】

資料を確認しながら進めていきましたが、よろしいかなと思っております。

【吉村議長】

はい、分かりました。それでは金田委員いかがでしょうか。

【金田委員】

特にございません。

【吉村議長】

はい、分かりました。またお気づきのことがありましたらお願いします。

社会に開かれた学校ということで施策1-5には社会を生き抜く力とあります。社会教育に十分かかわっていくと思いますので、日諸委員いかがでしょうか。

【日諸委員】

重点事項にも掲げておりますけれどもポイントがまとまっていて、とてもよろしいかと思えます。

先生方も大変ですがこのように進めていただければ、大変よろしいかと思えます。

【吉村議長】

ありがとうございました。私も事前に拝見しまして、新型コロナの対応で加速していたICT活用に関わるがございますので、富田委員いかがでしょうか。

【富田委員】

どちらかというと、先生方の業務上のツールとして使用するというのをうたってもいいのではないかと思います。先生方のアンケートの中で事務処理にかかっている時間がとても多く、こういうのをみると先生方が子どもに教えるというだけではなくて、自

分の業務の効率化みたいな活用としてこの中に入れてもいいのかなと思いました。

【吉村議長】

貴重なご意見ありがとうございました。

文部科学省もICT活用は教職員の業務の削減、働き方改革の一環という提案をしています。学習のツールとして非常に重要ですが、児童生徒が使うだけでなく、教員の業務削減のために活用ということを入れると良いと思いました。ありがとうございました。

P T Aの立場から大場委員いかがでしょうか。

【大場委員】

タブレットの活用ですが、単純にタブレット分の重さがランドセルにプラスされたようなイメージがあります。P T Aで他のお母さんと話している時に、教科書とか紙媒体は絶対に必要だと思いますが、もう少しランドセルが軽くなれないのかなという話がありました。

【吉村議長】

貴重な声をありがとうございました。

宮教大はSurfaceというパソコンが必携なものですから、学生が持ち歩いていますが大変だなと思っておりますので、そういうところも子ども目線で考えるといいかと思えます。

では、私の方でいくつか気になることがありますのでご意見申し上げます。

30ページの【3. 継続して学び合う力を育成する連携体制の充実】ですが、ここで主要事業が幼・保・小連携強化、これはよろしいのですが、幼児教育の視点から書いていますので、こういう書き方はやむを得ないと思いますが、小学校へのスムーズな移行のため、アプローチカリキュラム云々とありますけれども、文科省の架け橋プログラムの文章をみますと、これまでのアプローチカリキュラムと小学校のスタートカリキュラムの間に齟齬が生じるので、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを乗り越えていってほしいということです。今は非認知能力が脚光を浴びていて、幼児が持っている探究への芽、富谷市が力を入れている調べ学習に繋がっていくような、探究の芽がすでに幼児期にあるので、むしろ小学校がバトンを受けて発展させていくような施策が必要ではないかといったことを文科省が架け橋とっております。言葉尻にこだわるようで申し訳ないのですが、スムーズな移行とすると幼児が小学校に合わせるような感じで時代の流れとはズレるかなということがありますので、その辺ご検討いただきたいというのが一つでございます。文科省の文章をみていただければよろしいと思います。

それから、私は気仙沼市の学校の授業研究に関わらせていただいています。気仙沼市では先進的にE S D、ユネスコスクールに取り組んでいます。33ページのユネスコスクール活動・E S Dの推進は、理念としては大変すばらしいことですが、一方で各学校

の事情をふまえる必要があります。各学校がどういった児童生徒の資質能力を身に付けさせたいのか、そこをきめ細かくしないと、学校によっては、全市ぐるみのESDカリキュラム、ユネスコスクールが各学校の特徴を出していくことと齟齬が生じます。ESDカリキュラム、ユネスコスクールについてはあくまで学校が主体です。新学習指導要領では、一つ一つの学校がそれぞれの児童生徒、地域、その実態に応じたカリキュラムマネジを求めていますので、運用のところでは是非ご配慮いただければと思っております。

もう一点、「学びの共同体」についてです。こちらも理想的には素晴らしい取り組みだと思いますが、35ページの「パイロットスクールの指定」が上手く進んでいけばよろしいのですが、一つの学校にパイロットとして先進的という要請で負担感が出てしまうというのも本末転倒になってしまいます。学び合いの流れが相当できているということですので、各学校さんで頑張っているものが加速できるような施策だとよろしいかなということがございます。以上3点です。

学校教育に関するところでは44ページから52ページ、教育環境とか社会と学校との繋りとなっておりますが、いかがでございましょうか。

私は、富谷のような自治体だからこそできるきめ細かいサポートができていますなという印象をもちました。

では、次のところの【基本目標2 循環型生涯学習社会の推進】ということで生涯学習に係る部分についてのご意見を賜りたくと思いますが、いかがでしょうか。ページ数でいうと53ページから56ページですね、施策が二つありまして「生涯学習推進体制の充実」と「公民館活動の充実」、特に図書館が複合施設として令和7年にできるということで、その辺りをどうしていくのかということでご意見いただければと思います。

特に無いようでしたら基本目標3に進ませさせていただきます。【基本目標3 芸術・文化の継承・創造、文化財の保護・活用】「施策3-1 芸術・文化の継承・創造」「施策3-2 文化財の保護・活用」ここは57ページから60ページとなっておりますがいかがでしょうか。ここの問題は前回、日諸委員から富谷ならではの地域の特徴を生かしつつ、一方でグローバル、国際的な教育を作ってほしいという大変素晴らしいご提案がありました。日諸委員いかがでしょうか。

【日諸委員】

このコロナ渦の中でできることをやられていると思います。

民俗ギャラリーも移転しましたし、「とみやど」もできましたので、そこを十分に活用し子どもたちに富谷の良いところを教えていただき、富谷の良さを子どもたちが外に出た時に誇りをもって一つでも話せるようになって欲しいと思います。もう十分計画の中に入っていて、これが実行されたらそのようになっていくと思います。皆さんには頑張ってもらいたいと思います。

【吉村議長】

ありがとうございました。

生涯学習、それから芸術文化のところ、また学校が地域・家庭とつながっていくためにICTが無くてはならないところですので、富田委員からも是非ご意見賜りたいのですが。

【富田委員】

ツールとしてはたぶん必要となっていくと思います。

アンケートの結果をみて、富谷の文化的環境の充実に何を求めるのかということで、子どもの成長という回答が多くなっている結果をみると、子どもにもっと特化したような施策を打ち出すというのも有りなんじゃないかと思います。

アンケート全体をみたのですが、5年前の調査に比べてネガティブな印象を受けました。具体的にいうと、98ページ、保護者の方へのアンケートの中で経年比較する29年度と4年度では、低いとかどちらかといえば低いとかネガティブな方が圧倒的に多くなっていると思いました。どうしてこんなに5年間で変わってしまったのかなど。これは保護者の方の意見なので、保護者が子どもに対して求めているものが反映されていないのではないかと。ちょっとわからないんですけども、低くなっているということを受け止めつつ、施策にしてももう少し打ち出せないのかなというの個人的にアンケート全体を眺めて思いました。

公民館の話もそうですが、全体的に生涯学習で長い期間でみるのも良いけれど、もう少し子ども向けの施策を出せたら良いのかなと思いました。

【吉村議長】

統計をしっかりと読み込んでいただいて、ありがとうございました。

たしかに若年層については、私も地域の関心とか気になるころがありました。富谷はまだまだこれから成長していく街ですので、特に子どもが小さい30歳代とか、子どもたちですね、そういうところにターゲットを絞っていくというのも非常に重要なことだと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

それでは【基本目標4 生涯スポーツの推進】のところではいかがでしょうか。中学校の部活動もだんだん生涯スポーツに移行してとか、富谷の場合はとみやスポーツクラブが活動していますが、また、ご意見ありましたら是非事務局の方へということでお願いします。

いろいろ貴重なご意見を賜りました。特に富田委員からはアンケートを読み込んだご提案をいただきましたので、それを活かしていただければと思います。

次回もう一回また検討できるということで、それに関わって策定スケジュール変更の案というのがございますので、事務局より説明をお願いいたします。

【高橋主幹】

資料3、策定スケジュール変更案をご覧ください。当初、委員会につきましては全4回での開催で承認をいただいておりますが、当初の計画でいきますと本日の第3回策定委員会におきまして中間案ということでお示しする予定でしたが、予定よりもアンケート調査の分析等に時間を要しまして今回、アンケート調査の結果を盛り込むことが出来ませんでした。現在の進捗状況からしまして今月下旬から来月上旬にかけて第4回の策定委員会を開催し、アンケート調査の結果を盛り込んだ中間案としてお示したいと考えております。従いまして全4回の開催から1回増の全5回開催について変更の承認をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【吉村議長】

ただいま事務局から説明がありましたけども、当初予定していた4回から1回プラスの5回という提案がございましたが、よろしいでしょうか。

こちらの資料をベースにしまして現状の把握と課題の明確化、そして今日ご意見頂戴いたしました、今後の方向性、具体的な事業についてとなっておりますので、エビデンス、証拠を大事にするという時代の流れでございますので、大変申し訳ございませんが1回足して5回の開催といたします。

それでは、それに関わりまして次第の5、その他ということで、今お認めいただいた今後の開催日程について事務局より説明お願いいたします。

【高橋主幹】

第4回の策定委員会の事務局案といたしましては、10月31日月曜日の午後3時より開催したいと思っておりますが、これにつきましてはよろしいでしょうか。

【吉村議長】

今日6日で、すぐ10月末日ということでかなり詰まった日程でございますが、いかがでしょうか。ご多用のところ大変申し訳ございませんがよろしくお願いいたします。

【高橋主幹】

第5回策定委員会ですが、案といたしましては12月12日月曜日の午後3時からでお願いしたいのですがいかがでしょうか。

【吉村議長】

師走でお忙しいところですが、またここも月曜日の午後ということでよろしくお願いいたします。

【高橋主幹】

次回の開催通知につきましては後日送付させていただきます。よろしくお願いいたします。

ます。以上です。

【吉村議長】

それでは今回たくさんの検討事項がございましたけれども、おかげさまで進めることができました。議事進行につきましては終了いたしましたので、事務局にお戻ししたいと思います。

【相澤部長】

吉村議長、大変ありがとうございました、委員の皆さまもありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、高橋副委員長よりごあいさつをお願いいたします。

【高橋副委員長】

本日は、いろいろと膨大な資料を基に、話し合いが進んだことを本当に感謝しております。私も先日送られてきた資料を見て、付箋を付けて分析しようと思っていたんですが、なかなか大変だと思いました。先ほどおっしゃられていたように、私も読んでいて5年前と何でこんなに変わってしまったのかなと思いました。やはりコロナ禍で活動がストップしていたということがあるのではないかと思いました。これからはウィズコロナ、アフターコロナということも踏まえて策定も進めていく必要があるのかなということを、今日改めてICTとかユネスコスクールとかそういうものを通じて思いました。次回は今月の末ということで、そこまでに私も資料を見ながら考えていきたいと思えます。本日はどうもありがとうございました。

【相澤部長】

ありがとうございました。以上をもちまして、第2期富谷市教育振興基本計画第3回策定委員会を閉会いたします。お疲れ様でございました。